

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500704		
法人名	社旗福祉法人 不動産		
事業所名	グループホーム おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	令和4年3月3日	評価結果市町村報告日	令和4年 4月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おとぎの国の周囲には整備された庭園があり、南欧風に統一された建物は優雅さと安らぎを与えている。また建物内は利用者の皆様がお互いの顔を見ながら楽しんで食事のできる食堂や個人の居室には入所以前からご使用いただいている家具等を持ち込んでもらい、穏やかに安心した生活を送れるよう配慮している。ホームでのケアはグループホームの理念に沿って、利用者様自身の要望や利用者ご家族の意向等を職員全員で把握し、ケアプランへ反映している。また利用者一人一人に寄り添った支援や対応を行っている。食事には利用者様の好物や健康状態に合わせた食事作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で親しまれている法人関連事業所と併設されている事業所は南欧風の温かな雰囲気、季節の木・花が彩りを添えています。年々入居者の高齢化もあり、介護が必要な生活の場面も増えてきているようですが、法人・事業所の理念のもと、「ゆったりと」本人のペースに合わせた生活が支援されています。管理者との面談でも、日頃のケアの中で「自分(介護者)のペースに合わせたケアになっていないか」を理念に合わせて振り返る職員間の取組みをうかがうことができました。日々の生活では、近隣へ梅ちぎりへ出向き保存食を作ったり、敷地内の茶畑で茶摘みを行ったりと、豊かな環境のもと自然を感じるイベントも継続し生まれ、コロナ禍でも生活を楽しまれている様子が感じられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、基本方針とグループホーム独自の理念、職員憲章等を念頭におき、サービスを提供している。申し送りや会議時には、理念を基にした振り返りを行い、実践につなげてきている。	法人・事業所理念・基本方針に基づき、日頃から「ゆったりと」「本人のペースに合わせた」ケアを行っている。新人職員には職員動きを見てもらい「急がせない」ことを伝えている。振り返る機会を設け、職員自らのペースに合わせたケアになっていないかを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響を受け、地域の行事等には参加はしていない。	コロナ禍前までは地域への外出や子ども会との交流、伝承交流等を行っていた。コロナ禍では地域と入居者の日常的な交流は難しい状況であったが、散歩等は継続している。	コロナ禍以前は地域との関わりや法人施設を利用した交流をされており、管理者も課題ととらえ、コロナ禍でも出来ることを模索されている様子を伺いました。実現に期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元3地区)にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は2ヵ月1回会議を行っていたが、コロナの影響を受け、会議は中止している。施設から状況報告・質問用紙等の資料を運営推進会議メンバーへ送付し、報告と意見を求めた。	例年、年6回運営推進会議を開催し、事業所の運営状況、入居者の日頃の様子を報告している。書面による報告の際には「ご意見・ご要望・質問等記入用紙」を添付し意見を得る取り組みを行っており、家族からの面会希望や地域からの言葉等が寄せられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へは、毎回、市役所の長寿支援課からの出席があつている。市の担当者や市社協からの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市へは日頃の報告・連絡・相談等により協力関係の構築に取り組んでいる。運営推進会議にも参加があり、事業所の取り組みや活動、入居者の日頃の様子を伝えるとともに地域の情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは法人全体の方針であり、職員全員が十分に理解している。コロナ禍の為、外部研修や集団で集まった研修は中止になったが、委員会活動(身体拘束適正化委員会)として短時間で研修を行い、研修内容を職員へ報告。理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んできている。	法人で身体拘束をしないケアについて指針を設け、事業所も準じている。法人で2ヶ月毎に開催される「身体拘束適正化委員会」には職員が参加し、事業所での取り組みと事例を報告している。職員研修は新人研修時及び年3回行い、事例を用いて研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んできている。		

グループホームおとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。コロナ禍で家族には面会を控えて頂いたこともあり、状態報告等の電話を細目行ったことで、家族の気持ちや要望等をその都度聞くことが出来た。	コロナ禍によりこれまでのような面会受入れが難しい状況であったため、家族への連絡を密に行い意見を表しやすいコミュニケーション作りを行っている。訪問が難しい県外の家族等には通信アプリを使い「顔」を見る機会を増やし、意見や要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映している。	事業所職員での会議や打ち合わせだけでなく、日頃から管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けている。コロナ禍による職員の食事の取り方やケア方法等、会議の中で入居者の安心・安全なケアに向け話合ってきた。会議等で出た意見は管理者でまとめ、必要により法人へ報告・相談し、職員間へ報告を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での施設内研修会は中止になったが、毎月職員会議を行い、その際に研修テーマを決めてテーマごとの研修を実施している。また研修を通じて職員一人一人のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣地区のグループホーム等と定期的に講師を招き、研修会を開くなど行っていたが今年はコロナ影響もあり、外部研修等への参加ができなかった。		

グループホームおとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきている。又、本人が不安にならないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時や電話等でも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立支援に繋がるのか、楽しく過ごせているのか等を念頭に置きながら、サービスを提供している。又、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族には面会を控えて頂いたこともあり、定期的に写真入りの便りを発送や電話で近況報告等を行った。病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながらのお墓参りや法事などの他、同郷の友人・知人の訪問もあり、以前からの馴染みの関係が維持されるよう支援している。今年は、東京など遠方の知人の面会もあっている。	従来家族の面会もよく見られ、家族行事による外出や来訪もあるが、今年度は県のリスクレベルに応じて窓越し・オンライン面会等による関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者皆さんの性格や相性をスタッフが把握し、トラブルを防ぎながら、協調性を高め合える環境づくりに努めている。		

グループホームおとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向を第一に(困難な場合には、表情や反応から検討した本人の思い・家族としての思い等…)考え支援している。	日頃の職員の寄り添い・関わりの中で思いや意向の把握を行っているが、意思表示が難しい入居者もおられる。毎月の職員会議で、入居者の意思が感じられた場面や言葉掛け方法を出し合い、今後のケアに活かしている。入居者から得た希望や意向は共有し、必要に応じ介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向・要望を確認し、半年毎に入居者担当の職員が計画案をたて、会議で他職員の意見も取り入れてケアマネージャーが作成している。入居者の身体状況によっては、法人内の作業療法士に相談できる体制があることから意見を得、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や個別のチェック表を通して、また、体調異常時や経過観察等の情報もスタッフ間で共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様なケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

グループホームおとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。法人の医療機関である協力医を希望される際は、職員支援による通院を行っている。他の医療機関への通院は家族支援をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より、重度化された場合の事業所で出来る範囲の対応について説明し理解を得ている。終末期となる時期には再度家族と話し合い、医療等に関する希望を確認しながら対応している。「終末期もここでお願いしたい……。」と希望される家族が多く、今日まで、9名の方を看取って来ている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の対応を説明し同意を得ている。看取り期を迎えた際には家族・医療機関等関係者との話し合いを重ね、医療等の希望を確認し支援を行っている。1月には看取りケアについての勉強会を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練消防署立ち会いのもと実施していたが、コロナの影響もあり、おとぎの国職員のみで実施した。地域との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。	年2回火災避難訓練を行っている。法人他事業所とも隣接していることから、地域との協力体制も見られる。今年度は災害発生時における道具の使い方や確認も行う予定である。火災だけでなく、土砂崩れの際の避難場所の検討等も行っている。	火災時における避難訓練は継続されているようです。検討事項とされているようですが、自然災害時の避難経路や体制・対応においても職員間の共有が必要と考えます。

グループホームおとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けて来ている。	入居者の尊厳とプライバシーの確保は職員に日頃より重ねて伝えている。特に言葉遣いに関しては口調の強さ等も都度注意している。認知症ケアについての学びを深め、目線・視線の高さにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時の食事等でも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、訪問美容(理容)等を利用されている。又、特別な日や外出時の化粧や服装もその人らしい身だしなみ等ができるように相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めていくし、準備や片付けなどを一緒に行い、食事と一緒に、会話を楽しみながら過ごしている。又、利用者の誕生日会や記念日等特別な日には、皆さんのお好みメニューを準備し、お祝いしている。	行事食、誕生日等バラエティ豊かに考えられた献立は地元食材をふんだんに使い、職員による手作りで提供している。時には入居者と広告を見ながら希望を募ったり、誕生日にはリクエストメニューもある。希望が出づらい入居者には以前の生活歴から好みの献立を考える。栄養士によるアドバイス、献立内容の講評も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師から口腔ケアに係る技術的助言・指導を受け、各々の口腔状態に応じたケアを行い、口腔内の清潔保持に努めて来ている。又、法人内で定期的に口腔ケア委員会の会議を行うと共に、食後の口腔ケアを誰が行ったかも記録している。		

グループホームおとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。その人の状態に適したおむつ(パンツ)を使用すると共に、パターンに合わせてトイレ誘導・介助を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。	入居者一人ひとりの記録により、出来るだけトイレでの排泄を支援するため声掛けを行っている。トイレへの誘導・介助を行いながらも出来るだけ自立に向け、できるところは見守りとしている。パット等の大きさは一人ひとりの状況に合わせ、職員の意見を集め検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理やオリーブオイル・きな粉豆乳など飲食物の工夫と水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じ、いつでも入浴できる体制をとっている。入浴中の安全な見守りと体調管理に、特に注意を払ってきている。	週2回以上の入浴を基本とし、時間等はできるだけ要望に添えるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の離床と体調に応じての運動、少し活動的に過ごすこと等で夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用、症状の変化等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読むのが楽しみな人、料理(台所仕事)や書道が好きの人など、それぞれの好み・得意分野があり、それらを活用し、生活の中で張りのある日々を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。	以前から家族との外出や一時帰宅、法人他事業所との交流、季節の花見やドライブ等を行ってきた。近年コロナ禍ではあるが、入居者の自宅近辺へのドライブや車の中からの花見学、近隣への散歩や庭での茶話会等、外気を感じる取組みを継続している。	

グループホームおとぎの国

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便りや贈り物等へのお礼の他、本人の要望があれば、電話をかけ家族等と話をされている。遠方のご家族からの電話等は特に喜ばれ、毎年、年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けて、二カ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	入居者が日向ぼっこや季節の花植えで楽しむ中庭から明るい陽射しが差し込み、穏やかな空間が作られている。トイレや室内の臭気への配慮から次亜塩素酸を使った掃除、感染症予防から定期的な換気も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具(タンス、机、椅子)や思い出の品、家族の写真などが持ち込まれており、面会時にはその部屋でお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	入居時には使い慣れた生活用品の持ち込みをお願いし、家族写真や筆筒、テーブル等の生活用品が持ち込まれている。面会時には家族と居室で過ごされる姿も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファで談話したり休息される方々もおられる。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 GHおとぎの国

作成日 令和 4年 4月 30日

### 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時に備え避難訓練を実施しなければならないが、コロナ禍の為、消防職員、管理業者を入れた訓練が出来ていない。	年2回避難訓練を確実に実施する。	コロナが落ち着くまでは、施設職員のみで訓練を実施し、その際は本番さながらの緊張感を持って実施する。またコロナ終息後には消防職員や管理業者を入れた避難訓練を早急を実施する。	継続
2	2	コロナ禍の為、以前参加出来ていた地域行事への参加や交流、外出行事が出来ていない。	コロナ禍でも楽しめるような行事を企画する。また感染対策に努め、地域行事にも積極的に参加する。	外出行事や交流行事に参加する際は人混みや混雑時間を避けることや職員、利用者はマスクの着用等を徹底し、感染リスクを軽減に努める。GHでの活動は今後も継続し、広報誌や運営推進義会議等を活用しながら、地域に活動状況を発信していく。	継続
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

